



<CAM ベトナム・リサーチ・レポート>

情報提供用資料

2019年12月16日

ベトナム GDP 再算出で 25%UP

一人当たり GDP は \$3,000 超え

ベトナム統計総局(GSO)は13日、修正した2010~2017年の国内総生産(GDP)を発表した。今回の修正は既に8月に発表済みの計算方法に基づき、IMF や国連、アジア開発銀(ADB)の協力のもとに行われた。製造業を中心に国際水準に沿った算出方法の見直しを行った。GDPの再計算は今回が初めてではない。

この結果、2017年のGDPは約26%の上方修正となり、同年の一人当たりGDPは2,985ドルと、これまでの2,355ドル(2017年)、2,519ドル(2018年)よりも大幅に上昇した。現在修正中の2018年の数字は、3,000ドルを超える(3,149ドル)と予想されている。2018年のフィリピンの一人当たりGDP(IMFベースで3,104ドル)を抜く可能性もある。

GDPの上方修正は同国の経済政策に大きく影響をあたえる。対GDPの公的債務比率が61.4%→48.8%(2017年)と大きく下がることにより、財政健全性維持のため同比率の上限を65%と定めている同国にとって、インフラ投資向けの負債による資金調達に余地が大きく広がることになる。

また、一人当たりGDPが3,000ドルを超えると自動車等の耐久消費財の普及が加速すると言われている。海外から同国の購買力拡大を見込んだ内需関連企業の進出が予想される。

	2014	2015	2016	2017	2018※
(旧) 一人当たりGDP (\$)	2,029	2,034	2,133	2,355	2,519
(新) 一人当たりGDP (\$)	2,561	2,597	2,759	2,985	3,149
(旧)対GDP債務比率 (%)	58.0%	61.0%	63.7%	61.4%	58.4%
(新)対GDP債務比率 (%)	46.3%	49.2%	50.9%	48.8%	46.7%

※2018年は未発表につき、当社予測値

出所:GSO、MOFのデータを基にキャピタル アセットマネジメントで作成

以上